

梅若桜雪拝号記念能

# 京都梅若能

令和四年 九月二十三日 **金・祝**

十三時開演(十二時十五分開場)

# 京都観世会館



Supported by



日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

# 京都梅若能

令和四年 九月二十三日 **金祝**  
十三時開演(十二時十五分開場)

## 京都観世会館

京都府京都市左京区岡崎円勝寺町44

【番組】  
能 井筒

シテ 井上貴美子  
ワキ 原大  
間 茂山忠三郎  
笛 貞光 智宣  
小鼓 吉阪 一郎  
大鼓 石井 保彦

狂言 **太刀奪**

太郎冠者 茂山忠三郎  
主 山口 耕道  
男 小斉平真路  
後見 山本 善之

能 景清 松門之会釈

一調 **山姥**  
太鼓 角当 行雄  
井上 敬介

シテ 梅若 桜雪  
ツレ 井上須美子  
トモ 鷹尾 雄紀  
ワキ 福王茂十郎  
笛 松田 弘之  
小鼓 成田 達志  
大鼓 谷口 正壽



能「井筒」梅若能 参考画像

能「井筒」(SPO)

奈良七大寺を拝み巡った旅僧ワキが、在原寺に立寄った。こ  
こは昔、在原業平が紀有常のありませの娘と共に住んだ旧跡、  
僧は夫婦の跡を弔う。そこに若い女シテが古井戸の水を汲んで  
古塚に回向していたが、声をかけると業平の故事を語った。昔  
業平は、「石上(そのあかま)に紀有常の娘とむつまじく住んだが、  
別に河内の高安にも忍んで通った。妻は夫の身を案じて「風吹  
けば沖つ白波龍田山夜半にや君のひとり越ゆらん」と詠んだの  
で、業平もその後は河内へ行かなくなった。

この二人は幼な友で、ずっと以前は板垣の井戸に並んで遊ん  
だ。長じてから男は「筒井筒井筒にかけし我が丈生ひに遊ん  
しな妹見ざるまに」と詠み、女は「くらべし振分髪も肩過ぎ  
ぬ君ならずして誰かあくべき」と返歌した。そうした話の末  
に、自分こそ井筒の女、その時の娘だと身を明かして、薄すすき  
生おう井筒の陰にその姿は見えずにさきた(中入)。  
僧が一夜をこの寺で過すと、夢中にさきたの有常の娘の霊後  
シテが今度は業平の形見の冠や直衣のうしを身に付けて現わ  
れる。思ひ出を口ずさみながら女は美しい舞(序ノ舞)を舞い、  
井戸に袖をかけて昔のようにのぞく。すると今は業平の衣を  
着ているから業平その人にみえてなつかしさはひととおである。  
夜明けころ、僧の夢はさめて女の姿はかき消える。

狂言「太刀奪」(たちうばい)  
北野神社へ参詣に出かけた主人と太郎冠者は、よい太刀を  
持った男を見つけ、その男の太刀を奪おうと計画する。太郎冠  
者は、市の店を見てまわる男の太刀に手をかけたが、逆に脅さ  
れ、主人から預かった小刀を奪われてしまう。主人と太郎冠者  
は刀を取り戻すために男を待ち伏せしている。……  
《泥縄》のことわざを基にした御狂言で、太郎冠者、主人、男、  
三者三様の動きが笑いを誘います。

能「景清」松門之会釈(かけきよしょうものあしらい)  
源平の戦が、源氏方の勝利で終わった後、平家方の武将で、  
勇名を馳せた悪七兵衛景清は、盲目となり、日向国へ流されて  
いた。景清にはかつて、尾張国熱田の遊女との間にできた一人  
娘・人丸が鎌倉にいた。人丸は風の便りに景清が存命してい  
ることを知り、お供と共に日向国宮崎へ景清を訪ねる。  
落魄した身の上を嘆いている景清を人丸と従者が訪ね「景清  
を知りませんか」と声をかけるが、景清は悟らぬまじと、盲目  
でそんな人は見たこともない、と他人のふりを押し通す。  
人丸はその後、里人に事情を聞き里人が仲を取り持ち、よう  
やく対面が叶う。そして景清は、人丸の求めに応じ、八島の合  
戦の様子を聞かせる。源氏方の三保谷四郎と鍾を引くは生き  
戦した名勝負の場面だ。語り終えた景清は、もう長くは生き  
られないだろうと、人丸に戻り自分の跡を弔うよう頼み、親子  
は別れていくのである。

【梅若桜雪月号について】  
令和4年4月、梅若実は、能楽シテ方観世流二十六世宗家・  
観世清和師より「雪号」(せつごう)を授与され、梅若実改メ梅  
若桜雪(うめわかろせう)を名乗る(と)となりました。  
〔雪〕の字を用いた雅号(芸名)舞台名で、梅若実から梅若桜雪  
へ改名するということです。  
〔雪号〕は、現在能楽シテ方観世流のみに伝わる習慣で、明治  
期以前は主として観世宗家および分家の方に許されていまし  
たが、明治期になり代々の観世宗家が、功績のある自派の能楽  
師もしくは名手の誉高い者に限り授与するようになりました。  
この度の京都梅若能は、実改メ梅若 桜雪月号記念の催しと  
させていただきます。

チケット発売開始日: 令和4年7月1日より開始 好評発売中

### 【入場券販売所】

- 緑幸会 能楽チケット販売サイト  
<https://buynohticket.base.shop/>
- 公益財団法人梅若会  
電話: 03-3363-7748 <https://umewaka.org/>
- ダンスウエスト  
電話/FAX: 06-6447-1950(平日11時-16時)
- 京都観世会館  
電話: 075-771-6114 (9時~17時/月曜休館日)
- 京都梅若会 井上貴美子  
電話/FAX: 075-406-7513 Mail: nohmanabu@gmail.com

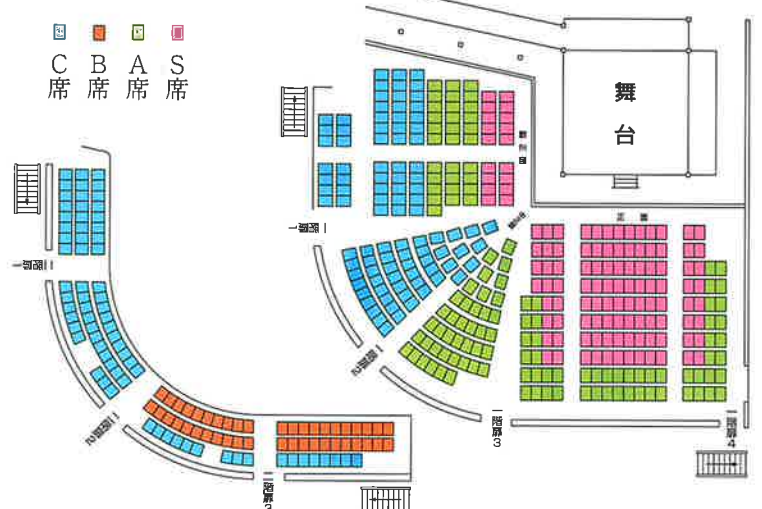
### 【料金】

SS席 10,000円(1階) S席 7,000円(1階)  
A席 5,000円(2階正面) B席 4,000円(1階・2階)(全席指定・税込)

### 【公演・チケットに関するお問合せ】

- 公益財団法人梅若会 電話: 03-3363-7748 [https://umewaka.org](https://umewaka.org/)
- ダンスウエスト 電話: 06-6447-1950 (平日11時~16時)  
FAX: 06-6447-1950 (24時間自動受信)  
MAIL: dancewest@outlook.jp

※ 事前の予告なく出演者が変更になる場合がございます。  
公演中止の場合を除いてチケットの払い戻しにはご対応いたしかねます。予めご了承の上チケットをご購入下さい。  
主催: 公益財団法人梅若会 協力: 京都梅若会、緑幸会 運営協力: ダンスウエスト



※ 本催しは、すべてのお客様、出演者、スタッフの安全と健康を確保し、  
状況に合わせた万全の感染症対策を講じた上で開催いたします。  
当日は、検温、手指消毒、マスク着用等感染症予防にご協力をお願い申し上げます。  
体温が37.5度以上の方はご入場をお断りする場合がございます。